

研究No (記載不要)	17-学長-5
----------------	---------

平成 17 年度配分 研究成果の概要

研究名	ショパンの協奏曲「室内楽版」演奏会				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費 2,000千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策	芸術文化	講師	小岩信治	演奏会用校訂譜の提供・全体の統括
共同研究者	文化政策	芸術文化	教授	平野 昭	プログラミングの監修
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 VII 号 (平成 19 年 3 月発行予定)	
	2 学会等での発表 学会等名：		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法：演奏会の開催 浜松会場 平成 18 年 2 月 26 日(月) 東京会場 平成 18 年 3 月 14 日(火)		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注：配分を受けた翌年度の 6 月末までに提出

(研究の目的等)

浜松および東京でのショパンの協奏曲の演奏会を本学が主催することによって、浜松市楽器博物館とすぐれた演奏者の協力のもとで、19世紀ピアノ音楽の演奏拠点としての浜松地域の文化力を高めることに貢献する。

(研究の実施方法等)

F. ショパンの《ピアノ協奏曲 第1番》ホ短調作品 11 を、この作品の初版（ライプツィヒ・キストナー社、1833年）に基づく「室内楽版」（研究代表者が校訂した楽譜）で演奏した。平成18年2月26日にアクトシティ浜松研修交流センター音楽工房ホール、同年3月14日に東京都中央区の第一生命ホールにて演奏会を行った。また、浜松・東京それぞれの公演に際して、事前に普及活動（公開講座・アウトリーチ活動等）を行った。

(得られた成果等)

浜松公演は入場券が完売し、来場者は220名となり、東京公演は402名の来場者で盛況となった。とくに東京公演については日刊紙や音楽雑誌で報道され、本学、浜松発の研究・文化活動として高く評価された。なお、本学の名前は明示されなかったが、東京公演の主要部分がNHK BS hiで放映された。本プロジェクトの企画の独自性が評価された証左の一つである。総合的に判断して、浜松からの文化の発信が本学主導で行われることによって、本学の大学名と結びついた浜松地域の文化力向上に貢献したと言える。また、とくに東京公演に合わせての中央区立日本橋小学校でのアウトリーチ（芸術普及）活動に、芸術文化学科の学生5名が加わり、アーツ・マネジメントの学外実習としての役割も果たした。